

1 高規格道路って知ってる？

■高規格道路は安全に早く走れる道路

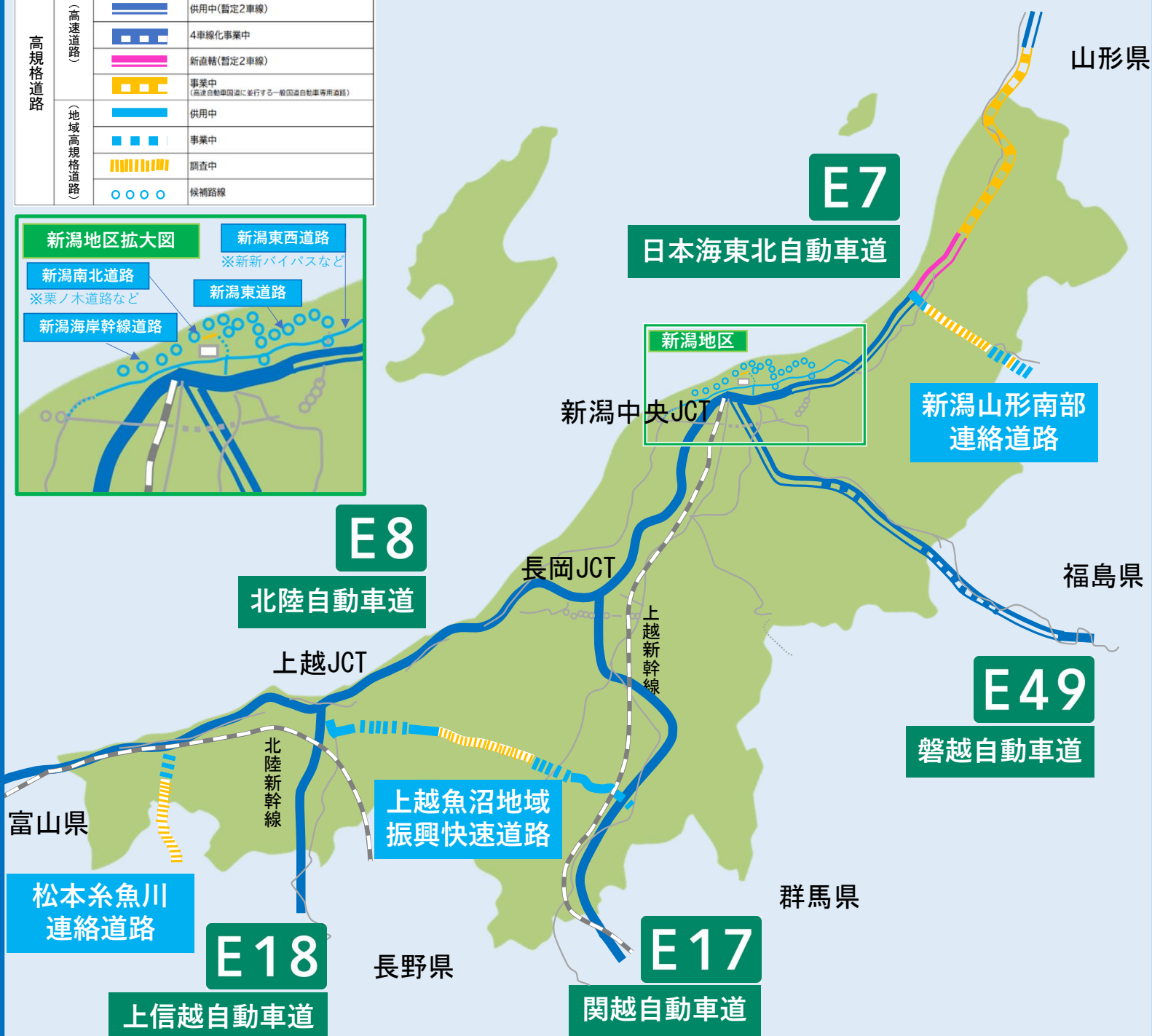
- ・ **速い**：60km/h以上で走行できる
- ・ **安全**：交差点が少なく、衝突事故のリスクが低い
- ・ **バイパス機能**：市街地を避け、都市間をつなぐ

関越道や
新新バイパスなどが
高規格道路だよ！



■新潟県内の高規格道路

高規格道路	
(高速道路)	供用中
	供用中(暫定2車線)
	4車線化事業中
	新直轄(暫定2車線)
	事業中 (高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路)
(地域高規格道路)	供用中
	事業中
	調査中
	候補路線



2 新潟県内の整備状況

■ 高規格道路（高速道路）の整備状況

県内に高速道路は **5 路線** あります。

令和 7 年 3 月末現在、計画延長475kmのうち、**441km（約93%）が供用**しています。

新潟県内の高速道路
総延長は全国 2 位



E 7

日本海東北自動車道



11号トンネル掘削工事

未供用区間を建設中

E 8

北陸自動車道



大積スマートIC (仮称)

スマートICを新設中

E 17

関越自動車道



関越トンネル

日本一長い山岳トンネル！

E 18

上信越自動車道



4車線整備前

渋滞解消！



4車線整備後

令和元年に全線 4 車線化完了！

E 49

磐越自動車道



小松上の沢橋付近

4 車線化改良中

■ 高規格道路（地域高規格道路）の整備状況

高速道路と一体となり地域同士の交流や空港・港湾へのアクセスを強化する道路です。

県内には **7 路線** あり、現在、概略延長約158kmのうち、**61km（約39%）が供用**しています。

松本糸魚川連絡道路



松糸・今井道路

上越魚沼地域振興快速道路



十日町道路

新潟山形南部連絡道路



鷹ノ巣道路

3 大規模災害時の広域支援

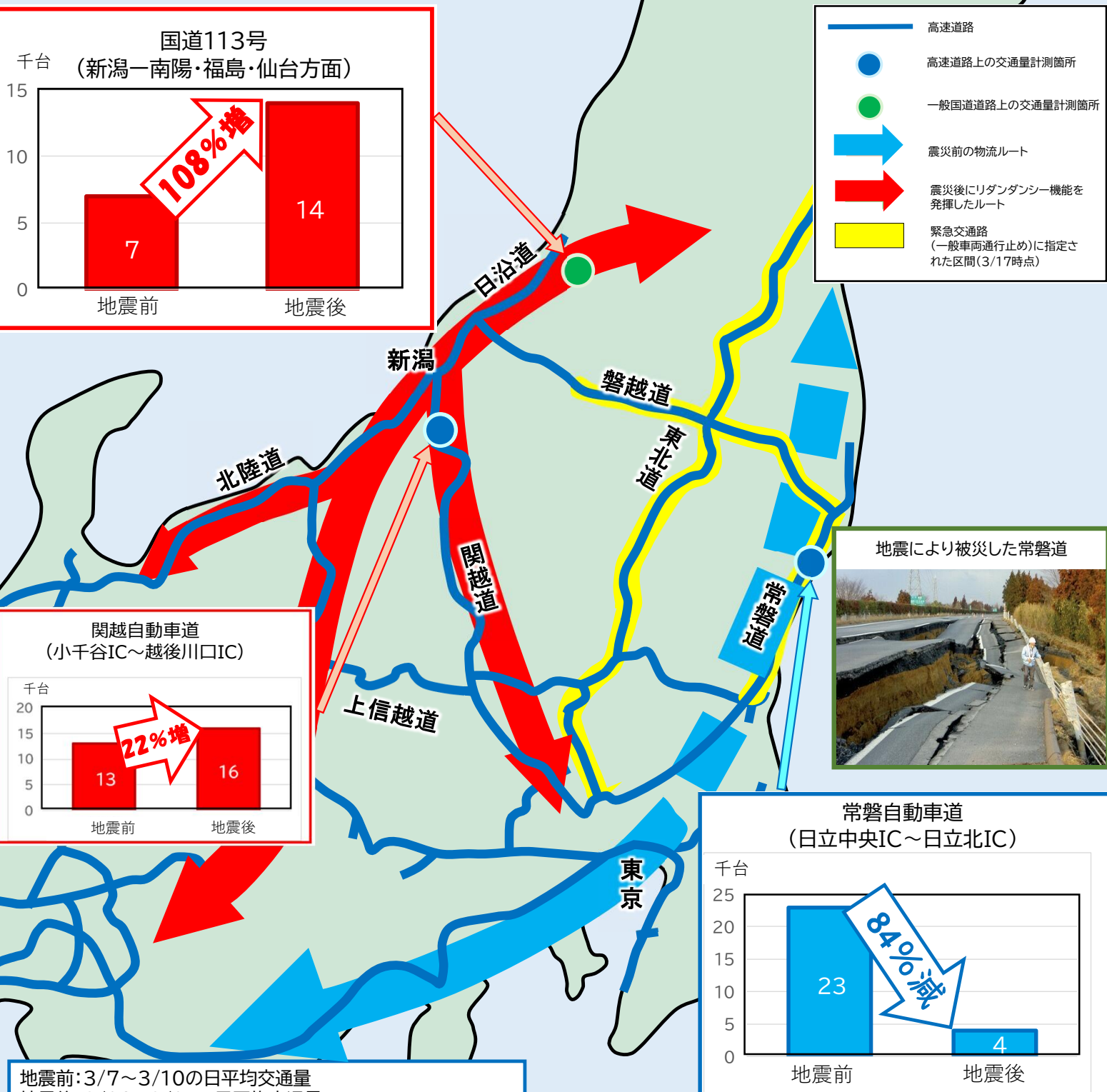
■東日本大震災前後における道路交通量の変化

太平洋側ルート^①の常磐自動車道では、交通量が**約8割減少**

日本海側ルート^②の国道113号では、交通量が**2倍以上増加**

太平洋側ルートに代わり、日本海側ルートが復旧・復興物資輸送や物流を担いました

⇒『**広域的な道路ネットワーク**』を整備することで、**全国からの支援が可能になる**



地震前: 3/7～3/10の日平均交通量
 地震後: 3/14～3/17の日平均交通量
 ※NEXCOトラカンデータ・直轄国道トラカンデータにより作成

(出典) 平成22年度国土交通白書

4 災害時の高規格道路の役割

■新潟県内の活用事例

■平成16年新潟県中越地震（2004年10月23日）

○新潟県中越地震時は、「関越道」が通行止めとなり、「磐越道」が代替路として機能しました。

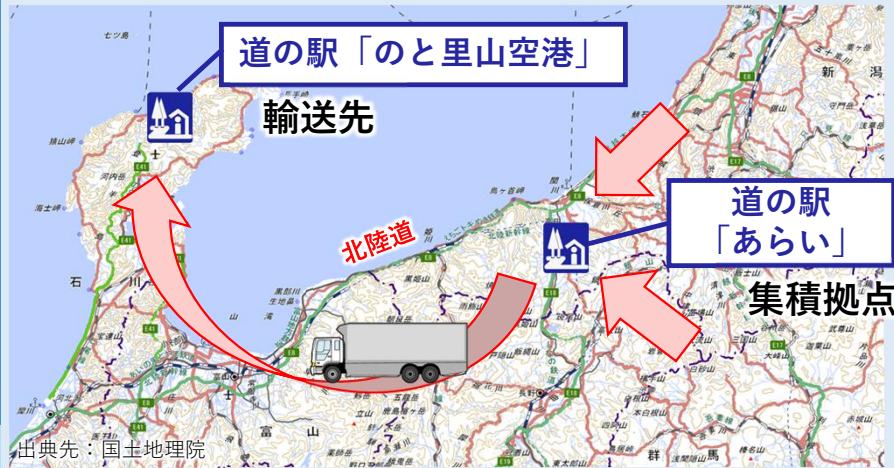
■平成23年新潟・福島豪雨（2011年7月27日～30日）

○国道49号が通行止めとなり、「磐越道」が代替路として機能しました。

■令和6年能登半島地震（2024年1月1日）

- リレー防災セミナー（主催：NPO人と道研究会 後援：国土交通省）の活動を通じて結びついた各駅が連携して災害地の道の駅支援を実施しました。
- にいがた下越駅長交流会や全国「道の駅」女性駅長会が中心になり、各駅の**備蓄品を防災道の駅「あらい」に集積し、被災地の道の駅「のと里山空港」へ「北陸道」等を経由し輸送**しました。

防災道の駅の位置関係



（出典）能登半島地震における「道の駅」の対応について（国土交通省道路局企画課評価室 令和6年4月）

道の駅「あらい」に集積した支援物資の積込



道の駅「のと里山空港」に届けられた支援物資



■糸魚川市大規模火災（2016年12月22日）

- 糸魚川市の大規模火災では、国道148号を**通って長野県から消防隊が応援**に駆け付け、消防活動にご尽力いただきました。
- 「松本糸魚川連絡道路」が完成することで、より早い相互の応援が可能となります。



（出典）新潟県災害デジタルアーカイブ（平成22年12月22日）

■本年の大雪（2025年1～2月）

- 本年1～2月の大雪では、国道49号と磐越道の同時通行止めに伴い、**国道113号が新潟県と福島県間の広域迂回路**として、物流を支えました。
- 「新潟山形南部連絡道路」を整備することで、より早く確実な物資輸送が可能となります。



（出典）国道49号の通行止めに伴う広域迂回位置図（令和7年1月8日ほか）（北陸地方整備局、東北地方整備局、東日本高速道路（株））